

建築学科 オープン・ジュリー

工学部

木下 光

設計製図は建築学科の重要な演習課題の一つとして位置づけられているが、設計製図Ⅳはその最終課題かつ卒業設計のプレ課題として四年前期に行っている。今年から京都大学の竹山先生をお招きし、四、六人を一グループとして梅田のJR操車場跡地を敷地とする課題「都市のプログラム」都市の祝祭」に取り組んだ。

この課題は本学文学部の

植島先生にも加わって頂き、学際的な視点から議論することに力点が置かれた。それはハードとしての単なる箱の計画ではなく、都市の中心すなわち、大阪の中心がどのような空間としてあるべきなのかを問うているからである。また、課題では自分が提案することとを図面や模型にするだけでなく、限られた時間の中でプレゼンテーションを行なうことも非常に重要であるため、課題最終日に提出を兼ねて図面及び模型を展示し、建築史家や都市計画家等ゲスト講師を招いてオープン・ジュリーを行った。社会における建築の意味が問い直される今日、建築学科の設計課題は従来のような計画系教官と建築家による図面指導にとどまらず、コンセプトの構築やその根拠となる調査分析も図面作成と同等に位置づけながら、様々な分野の都市に関わる研究者・専門家を加え、課題運営する方向へと発展している。

(工学部専任講師)



図面と模型の展示



オープン・ジュリーの光景～オレンジルームにて